

# 米国の覇者から「バランス」の道へ

米国の威信低下により世界の不透明さが増している。冷戦後にアメリカが中心となり形成してきた秩序を、ロシアや中国というリビジオニスト・パワー（現状打破国家）が「力」で覆そうとしている。その状況をウォルター・ミードは「地政学の復活—リビジオニスト・パワーの復讐」（『Foreign Affairs』誌2014年5/6月号）として解説する。



拓殖大学海外事情  
研究所所長・教授 川上高司

視船が、6日、スプラトリー諸島（南沙）のハーフムーン沖で違法操業をしていた中国漁船を拿捕した直後である。そして、これら一連の出来事が、オバマ大統領の4月末のアジア歴訪の直後に起こったことは、中国のアメリカの覇権への挑戦を意味する。したがって、ミードの論点からすれば、オバマ政権はロシアと中国に対する「宥和政策」を捨て、現状打破国からのチャレンジを受けて立たねばならないことになる。

その不安を払拭するかのようには、オバマ大統領は訪日した際に「尖閣諸島は日米安保第5条の適応範囲にある」と明言した。しかし一方、領有権争いは「国際法に基づく平和的解決を目指す。領有権争いにおける主権で

その不安を払拭するかのようには、オバマ大統領は訪日した際に「尖閣諸島は日米安保第5条の適応範囲にある」と明言した。しかし一方、領有権争いは「国際法に基づく平和的解決を目指す。領有権争いにおける主権で

## リビジオニスト・パワーの台頭

からリビジオニスト的外交政策を展開するのであり、現状変革パワーではない」とする考えに近いのかもしれない（「地政学の幻想」、『Foreign Affairs』誌2014年5/6月号）。一方、日本に対する考え方は台頭する中国に對する競合相手であり、中国と日本との間のパワー・バランスをとるのが米国のバランスサーとしての役目となる。

そのように考えれば、米国の覇者の地位から降り、バランスサーへの道を選択したとも考えられる。バランスサーにおいてもバランス・オブ・パワーの維持とは別に、他国の力と釣り合いをとっていく過程で、自らの国家政策の目的の実現を留意す

そのように考えれば、米国の覇者の地位から降り、バランスサーへの道を選択したとも考えられる。バランスサーにおいてもバランス・オブ・パワーの維持とは別に、他国の力と釣り合いをとっていく過程で、自らの国家政策の目的の実現を留意す

そのように考えれば、米国の覇者の地位から降り、バランスサーへの道を選択したとも考えられる。バランスサーにおいてもバランス・オブ・パワーの維持とは別に、他国の力と釣り合いをとっていく過程で、自らの国家政策の目的の実現を留意す

る。この観点から、集団的自衛権の行使容認は緊急な課題となっている。個別的自衛権や自衛隊法等の発動だけでは、公海上やグレイゾーンなどで軍事的紛争が生じた場合に、米軍の支援を得ることは現実ではない。

訪日したオバマ大統領は、集団的自衛権の行使容認を「歓迎し、支持する」と表明した。大統領から力強い後押しを得た安倍総理は、私的諮問機関である「安保法制懇」の最終報告書の提出を受け、集団的自衛権行使の閣議決定を行ったのち国会へ諮る予定である。そこから問題である。集団的自衛権行使の容認をした後、いかに米国の尖閣諸島防衛に巻き込むのか。その仕組みを作っておくのが重要となる。そのためには、新ガイドラインの制定と日米安保改定までも睨んだ戦略が必要となるであろうし、国民による憲法論議が欠かせない。

中国は、2010年3月に南シナ海を「核心的利益」であるとし、当該地域を台湾やチベットと同列に位置づけたい。核心的利益の地域では交渉の余地はなく、領有権を保持するため

中国は、2010年3月に南シナ海を「核心的利益」であるとし、当該地域を台湾やチベットと同列に位置づけたい。核心的利益の地域では交渉の余地はなく、領有権を保持するため